

2課

10月11日

神の 導きと恵みに驚く



▶ヨシュア記2:4～5

女は、急いで二人(→斥候spy)をかくまい、こう答えた。

「確かに、その人たちはわたしのところに來ましたが、わたしはその人たちがどこから來たのか知りませんでした。日が暮れて城門が閉まるころ、その人たちは出て行きましたが、どこへ行ったのか分かりません。急いで追いかけたら、あるいは追いつけるかもしれません。」

▶ヘブライ人への手紙11:31

信仰によって、娼婦(遊女)ラハブは、様子を探りに來た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。→the harlot Rahab = 娼婦、偶像崇拜者

▶ヤコブの手紙2:25

同様に、娼婦(遊女)ラハブも、あの使いの者たちを家に迎え入れ、別の道から送り出してやるという行いによって、義とされたではありませんか。

ラハブは、カナンの町エリコに住む遊女でした。社会的には低い立場で異邦人でしたが、神の計画の中で重要な役割を果たします。

ヨシュア記2章で、イスラエルの斥候をかくまい、神が全地を支配されることを信じて勇気ある行動を取りました。赤い紐を窓にかけ、家族の命を守ったその姿は、**信仰が行動に現れる**ことを示しています。

ラハブはその信仰によって、イスラエルの救いの歴史に参与し、ダビデの系図にも名を残しました。先述の「ヘブル11:31」や「ヤコブ2:25」では、信仰と行いの模範として称えられています。

ラハブのように、私たちも立場や過去に関係なく、神を信じ勇気ある行動を取るなら、神の御計画に参与する者となれるのです。

ラハブの信仰は、「信仰は行動とともに輝く」ということを教えてくれます。

「ヨシュア記」を通して、神は私たちに「**約束は必ず成就するが、その恵みにあずかるには信仰と従順が不可欠である**」ということを教えておられます。

モーセの死後、ヨシュアがイスラエルの指導者(➡**指揮官**)として民を導き、約束の地カナンに入る場面は、**神の計画が人間の失敗に左右されず、時が来れば必ず実現すること**を示しています。**イスラエルの勝利は、人間の戦略や軍事力によるものではなく、神の御言葉への信頼と従順によるものであり**、エリコの城壁の崩壊やヨルダン川の渡河は、その象徴的な出来事です。

一方で、**ギブオン人との契約の物語では、イスラエルの指導者たちが神に尋ねず、自分たちの判断で契約を結んだために、策略にだまされてしまいました**。この出来事は、私たちが**どんな決断をするにしても、まず神の導きを求める**ことの重要性を教えてください。また、ラハブの信仰やギブオン人の命乞いは、**異邦人であっても神を信じる者はその恵みにあずかることができるという、神の慈愛と憐れみの広さ**を示しています。

ラハブは堕落した社会の中にありながら、神を唯一の救い主として信じる決断をしました。この信仰によって、彼女と家族は救われ、イスラエルの民と共に神の約束に関わる者とされたのです。さらに、ヨシュアは民に対し「今日、あなたたちは誰に仕えるかを選びなさい」と呼びかけ、自らと家族は主に仕えると告白しました(ヨシュ24:15)。これは、**神の約束にあずかるには、個人の決断として神に従う信仰が不可欠であること**を示しています。「ヨシュア記」は、**私たちの真の指揮官である神の約束を信じて歩む者が勝利と安息を得ること、また従順によって神の恵みを確かにする生き方を私たちに教える、“信仰の実践書”**なのです。

ヨシュア記に登場する「カレブ」

ヨシュア記	14:6 そのころ、ギルガルのヨシュアのもとにユダの人々が来た。その一人ケナズ人エフネの子カレブがこう言った。「主がカデシュ・バルネアでわたしとあなたのことについて神の人モーセに告げられた言葉を、あなたはご存じのはずです。
ヨシュア記	14:13 ヨシュアはエフネの子カレブを祝福し、ヘブロンを嗣業の土地として彼に与えた。
ヨシュア記	14:14 ヘブロンはケナズ人エフネの子カレブの嗣業の土地となって、今日に至っている。彼がイスラエルの神、主に従いとおしたからである。
ヨシュア記	15:13 主の命令に従い、ヨシュアはエフネの子カレブに、ユダの人々の領内のキルヤト・アルバすなわちヘブロンを割り当て地として与えた。アルバはアナク人の先祖である。
ヨシュア記	15:14 カレブは、アナク人の子孫シェシャイ、アヒマン、タルマイの三氏族をそこから追い出し、
ヨシュア記	15:16 カレブは、「キルヤト・セフェルを撃って占領した者に娘アクサを妻として与えよう」と約束した。
ヨシュア記	15:17 カレブの兄弟、ケナズの子オトニエルがそこを占領したので、カレブは娘アクサを妻として彼に与えた。
ヨシュア記	15:18 彼女は来て、父から畑をもらうようにオトニエルに勧めた。彼女がろばの背から降りると、カレブは、「どうしたのか」と言った。
ヨシュア記	21:12 ただし、この町の畑と町に属する村は、既にエフネの子カレブに与えられ、彼の所有地となっていた。

神の約束は確かでも、人間の信仰と努力(協力)が求められる

イスラエルには約束の地に入る二度目の機会が与えられ、ヨシュアはこの使命を真剣に受け止めました。第一歩は、彼らが直面している事態を明確に理解することです。ヨシュアは2人の斥候を派遣し、その土地の防衛体制、軍事的備え、水の供給、侵略軍を前にしての住民の態度など、貴重な情報を得させました。

イスラエルの人々に土地を与えると神が約束されたのだから、彼らは何の努力をする必要もなかったと考える人もいるでしょう。しかし、**神の支援の保証は、人間の責任を無効にするものではありません**。イスラエルは再びカナンの国境に立っています。

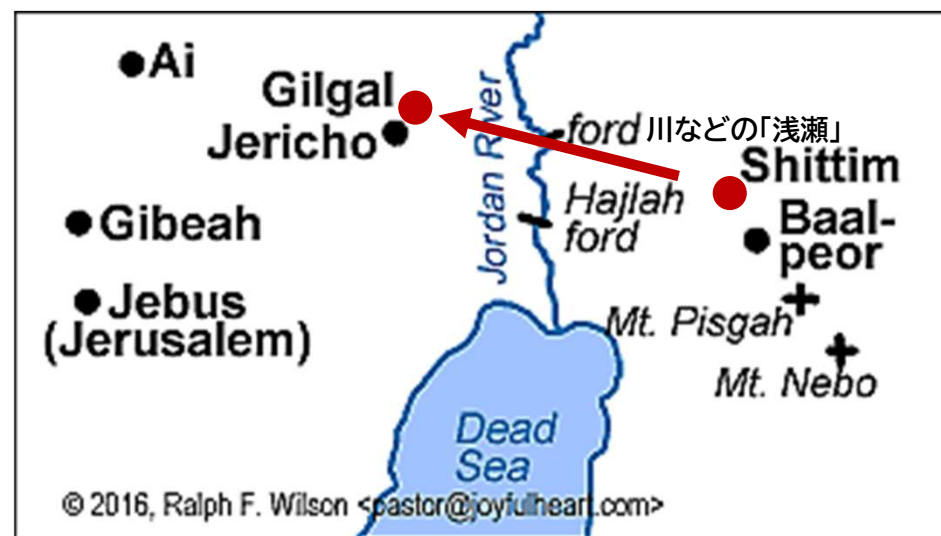
出来事	聖書箇所	内 容	結 果
最 初 の 機 会	民数記 13～14 章	モーセが 12 人の斥候を派遣する。民が不信仰に陥る。	約束の地に入れず、40 年荒野をさまよう。 ➡民数記14:37
二度目の機会	ヨシュア記 1～2 章	ヨシュアが 2 人の斥候を派遣する。民が信仰によって従う。	約束の地への進入とエリコ攻略に成功する。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250 〈シティム〉3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : シティム]
民数記	25:1 イスラエルがシティムに滞在していたとき、民はモアブの娘たちに従って背信の行為をし始めた。	
ヨシュア記	2:1 ヌンの子ヨシュアは二人の斥候をシティムからひそかに送り出し、「行って、エリコとその周辺を探れ」と命じた。二人は行って、ラハブという遊女の家に入り、そこに泊まった。	
ヨシュア記	3:1 ヨシュアは、朝早く起き、イスラエルの人々すべてと共にシティムを出発し、ヨルダン川の岸に着いたが、川を渡る前に、そこで野営した。	

民数記14:6～7、9

土地を偵察して来た者のうち、ヌンの子**ヨシュア**とエフネの子**カレブ**は、衣を引き裂き、7イスラエルの人々の共同体全体に訴えた。

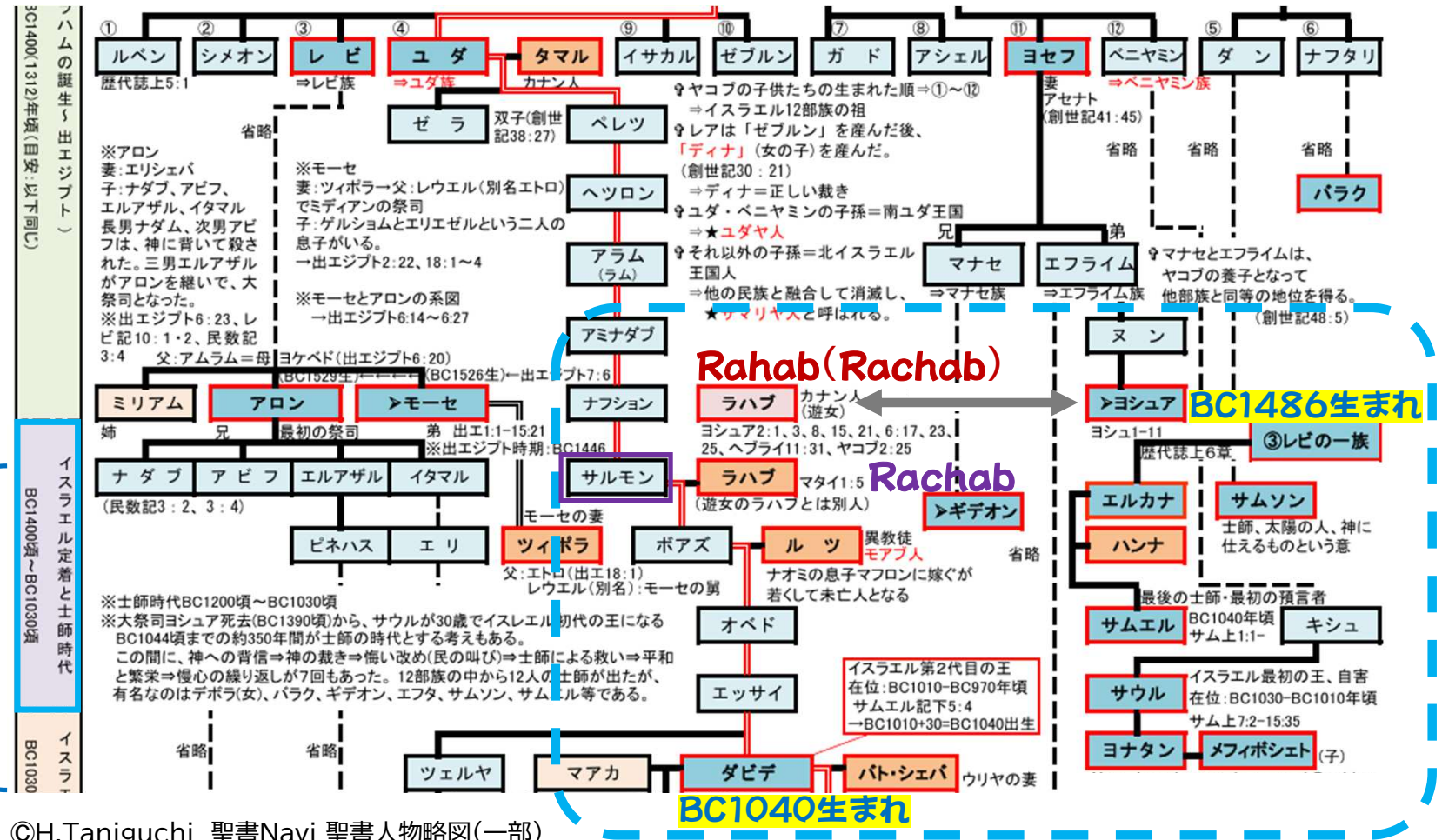
「我々が偵察して来た土地は、とてもすばらしい土地だった。9ただ、主に背いてはならない。あなたたちは、その住民を恐れてはならない。彼らは我々の**餌食**にすぎない。彼らを守るものは離れ去り、**主が我々と共におられる(→神の導きと恵み＝遊女ラハブとの出会い)**。彼らを恐れてはならない。」



マタイ1:5サルモンは、
 ラハブによつてボアズを、
 (注) ラハブの名前に「娼婦」がない

約 440年-

Booz of Rachab → KJB (NKJV → X by)
 ラハブ (の子孫) から
 → of = ek ek = よつて



品性の完成の時期は人によって異なる

エレン・G・ホワイトは、「後の雨は、第三天使の大いなる叫びを完成させるために教会に与えられる」と述べつつ、同時に「**個々の信者がその備えをしていなければ、後の雨を受けられない**」（→後の雨は全体に降るが、受け取りは個々人の備え次第）と記しています。

→Only t... advancing
in the ex... the Holy
Spirit in...
自分が与... もし私
たちが目... の顕現を
認識する... 私たち
はそれを...
Chapter] **イスラエルの人々がカナンの地に入ることができたのは、**
彼らの信仰による部分もあったが
それ以上に、神が定められた時、
つまり「カナン人の罪が満ちる時」が来たからである。 397.]

in Testimonies to Ministers and Gospel Workers, p. 405 [508]

→品性の完成の時期

「後の雨＝品性の完成」というよりは、後の雨はすでに形成されてきた品性を「仕上げる」役割として記している。つまり「**後の雨を受ける準備ができている人**」には、**時が来たときに聖霊が注がれる**。準備が遅れている人は、その時に備えが不十分なため、十分に受けられない。このため結果的に、**品性の完成の時期は人によって異なる**のです。

ヨシュア記9章から分かること

イスラエルがエリコとアイを征服したという知らせを聞いたカナンの諸王たちは、イスラエルに対抗しようと連合軍を結成します。しかし、ギブオン人だけは戦う代わりに、策略を用いてイスラエルと「和約」を結ぼうとします。

1. 人間的判断ではなく、神に尋ねることが大切(9:14)。

イスラエルのリーダーたちは、ギブオン人の言葉や見た目を信じてしまい、神に相談せず決断したために失敗しました。外面的な証拠や感情に頼ると、誤った判断を下すことになる。

2. 神の名による誓約は破ってはならない(9:18)。

たとえ相手がだましたとしても、主の名による誓いは神聖であり、イスラエルはそれを守りました(神の名を軽んじない信仰的誠実さ)。

3. 神は憐れみ深いお方である

ギブオン人は策略を使いましたが、イスラエルの神に対する恐れと信仰のしるしを示したため、滅びではなく生き残る道を得ました。

